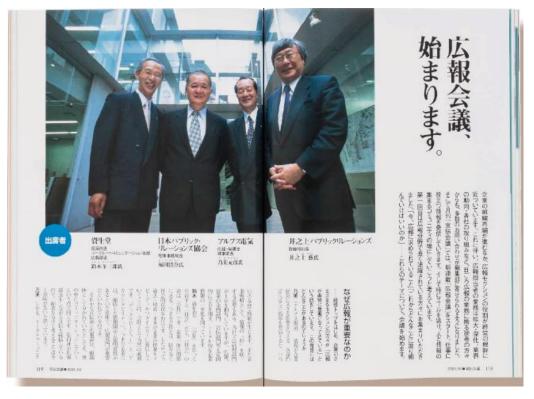
- ①「広報会議」とは?
- ②企業の広報活動・危機管理広報の現状
- ③PESOと広報担当・組織のこれから
- 4 広報効果測定の手法

①「広報会議」とは?







2001年11月「宣伝会議」本誌の、ひとつのコーナーとしてスタート









2004年12月準備号、2005年4月創刊、2009年2月リニューアル











2010年代後半(コロナ前)に部数が1.8倍に



読者の拡大=広報という概念の拡大

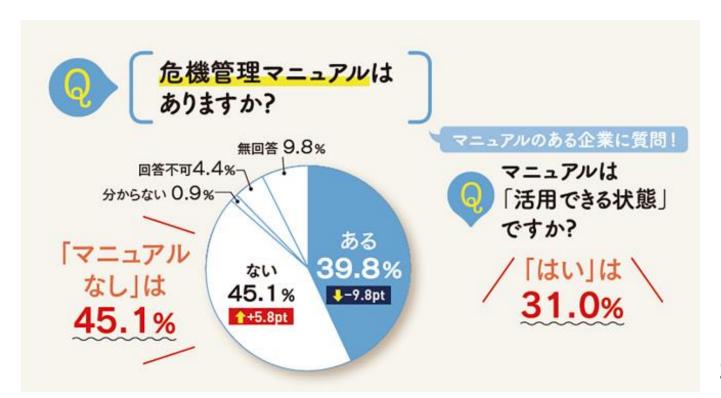
広報の重要性を感じるプレーヤーの増加 メディア環境・情報流通構造の変化



②企業の広報活動・

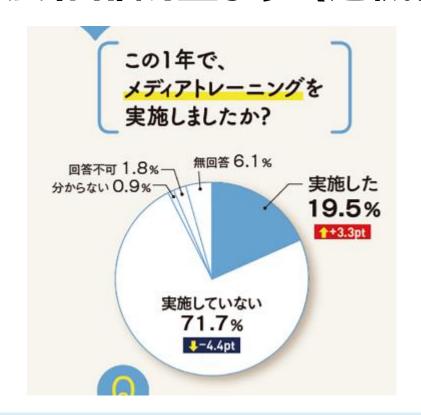
危機管理広報の現状

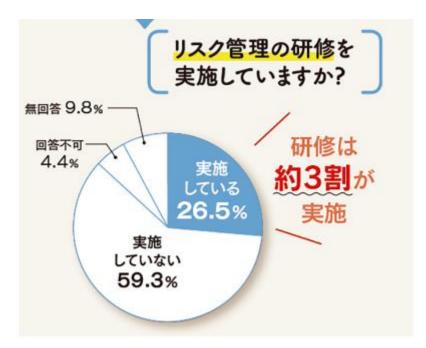




月刊「広報会議」 2022年2月号より

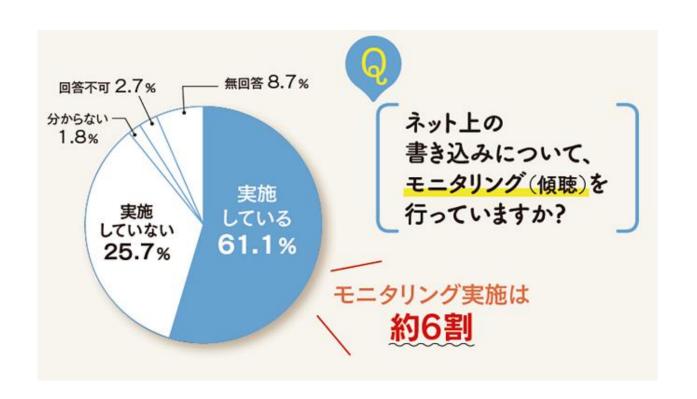






月刊「広報会議」2022年2月号より





月刊「広報会議」 2022年2月号より





月刊「広報会議」 2022年2月号より



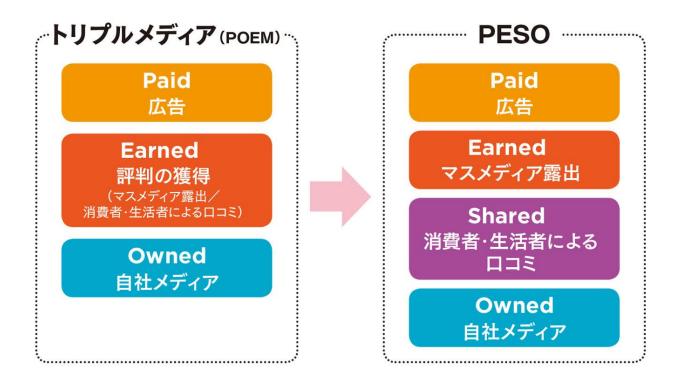
③PESOと

広報担当・組織のこれから



炎上対策=SNS(単体の)対策ではない!





月刊「広報会議」 2019年4月号より



6つのタイプ	概要
① OSE(P)型	現代の統合型広告コミュニケーションのスタンダード。 なんらかのOwnedを起点にし、そのOwned (例えばウェブ動画) が数多くShareされ、その現象を番組や記事が取り上げ(Earn ed)、一連の流れのブースター役として時にPaid(従来の広告 スペース)も活用。
② OES(P)型	Owned(ウェブ動画や何らかの仕組み)自体の話題性で、まず Earned(番組や記事で取り上げてもらう)ことを狙い、そのこ とからShared(SNSなどでの拡散)を狙うというタイプ。
③ OPES型	Owned(ウェブ動画や何らかの仕組み)を用意、Paid(広告) を活用してまずOwnedについて知らしめ、Shared(SNSなど での拡散)を狙い、さらにEarnedで拡げていこうとする類型。

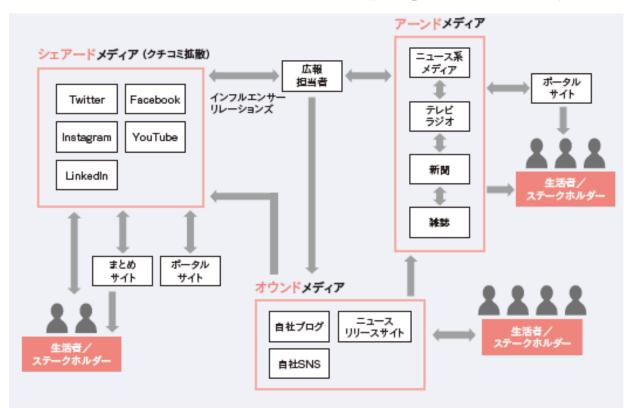
月刊「広報会議」 2019年4月号より



④ PEOS型	センセーショナルなPaid(広告)で口火を切って、番組や記事 で取り上げてもらい(Earned)、 ウェブで情報を付加し (Owned)、SNSで口コミを期待する(Shared)。
⑤ POSE型	この類型も多数あり、①に次ぐもう1つのスタンダード。 パワーのあるPaid(広告)を皮切りに、商品開発やウェブなど のOwnedにつなげ、SNSで話題になり(Share)、それがまた 記事や番組で取り上げられる(Earned)というもの。
⑥ PSE(O)型	Paid(広告)がインパクトのあるもので、それがSNSなどで話 題を呼び(Shared)、そのことが番組や記事で取り上げられる (Earned)というタイプ。

月刊「広報会議」 2019年4月号より





月刊「広報会議」 2022年5月号より



①PRコンテンツをつくる力 (キュレーション能力)

- 一情報の収集と分析(高い情報感度と好奇心)
- 一新しい価値の発見(気づく力、創造力)
- ―自社活動との意味付け、付加価値の発見(ストーリー構築)

月刊「広報会議」 2022年5月号より



②情報発信の基礎力(コミュニケーションカ)

- 一対話力(生活者と直接向き合い、公開の場で対話をすることも)
- ―傾聴力 (企業の「広報力≒発信力」ではなく、生活者の声を聞けるか)
- ─継続力 (SNSなど継続した運用のための体制づくり)
- 一調整力(社内を含むステークホルダーとの事前調整が複雑に)

月刊「広報会議」 2022年5月号より



③表現力(コンテンツを見せる、読ませる力)

- 一文章表現
- ―ビジュアル作成
- 一インフォグラフィック
- ― ノンデザイナーでも使えるデザインシステム
- ―インハウスのデザイン組織、ブランディング専門部隊
- ―デザインと行政広報の可能性

月刊「広報会議」 2022年5月号 もとに加筆



企業事例 オウンドメディアの活用 (ニチレイ)



ニチレイ「ほほえみごはん」

「昨今はフェイクニュースやキュレーションサイト問題もあり、『企業が発信している情報なら正しい・安心だ』と思われる風潮にあります。『冷凍食品メーカーがやっている冷凍食品のオウンドメディア』としての信頼性が高まり、テレビ局から番組制作の際の出典として利用されることも増えました」

月刊「広報会議」2021年12月号より



企業事例 報道への反論 (フマキラー)



「キッチン用エタノール」報道に 対する当社見解(20.3.9)

「キッチン用エタノールにコロナウイルスに対する 消毒効果はあるという科学的証明はされてい ない」といった多数の報道に自社サイト上で迅 速に反論。「報道により、問い合わせやクレーム が殺到し、混乱が生じていること」「外部による 試験を通じ、フマキラーの製品がウイルスに対し 一定効果があることは証明済みであること」を 主張し、混乱を鎮静化した。

月刊「広報会議」20年7月号・21年11月号より



企業事例 Twitterデマの鎮静化(丸富製紙)



こんにちは! 丸富製紙です。

各地でトイレットペーパーが不足するなど、一部報道 されておりますが、当社倉庫には在庫が潤沢にござい ますので、ご安心ください!

今後も通常通り、生産・出荷を行なっていく予定です。

#丸富製紙 #トイレットペーパー #在庫あります #静岡県 #富士市 #製紙 #メーカー



午後3:33 · 2020年3月2日 · Twitter for iPhone

「トイレットペーパー不足」報道に対し 生産・出荷の様子を発信(20.3.2)

デマの影響で小売店でのトイレットペーパー不足が深刻化する中、買い占めを抑止しようとTwitterと Instagramを活用。トイレットペーパーの入った箱が大量に積まれた倉庫の写真を投稿。「当社倉庫には 在庫が潤沢にございますので、ご安心ください!今後も 通常通り、生産・出荷を行なっていく予定です。」などと コメントした。報道でもこの投稿が多数取り上げられ、イオンから「トラックを手配して在庫を取りに行きたい」と の供給要請が入るなど、デマの鎮静化に寄与した。

月刊「広報会議」2020年5月号より



全社員・全職員が 「コンテンツクリエイター」



「広報が効果測定なんて言い始めたら終わり」 という専門家の声もあるので、 あくまで一手法として



バルセロナ原則3.0 (AMEC:国際コミュニケーション測定評価協会)

- 1)ゴールの設定は、コミュニケーションのプランニング、測定、評価に絶対的に必要なもの
- 2) 測定と評価はアウトプット(施策の成果)、アウトカム(目標に対する成果)に加え、 潜在的なインパクトを明らかにすべき
- 3)ステークホルダー、社会、そして組織のために、アウトカムとインパクトを明らかにすべき
- 4)コミュニケーションの測定と評価は、質と量の両方を含む必要がある
- 5)広告換算はコミュニケーションの価値を測定するものではない
- 6)包括的なコミュニケーションの測定と評価には、オンラインとオフラインの両チャネルを含む
- 7)コミュニケーションの測定と評価は、学びとインサイトを導くため、誠実さと透明性に基づくべき

月刊「広報会議」2021年4月号より



1 活動KPI

- 定性=経営課題から逆算し、重点的に 扱う年間テーマを設定
 - 例:環境活動の発信、トップ取材誘致の強 化、中期経営計画に基づく重点事業
- 定量=年間テーマに基づき、記者会見 やプレスリリース、インタビューの回 数などの活動数

プレスリリースは年間で50件、そのうち3割は環境関連にしよう

前年5件だった トップインタビューを8件に



- 主要新聞、業界メディア、雑誌、テレビなどのカテゴリーに分けて、何件の露出を狙うか
- 自社の状況に照らし、注力する媒体や メディア群別の掲載目標数を決める

A新聞とB新聞が重点媒体。 それ以外の主要紙を次点に設定

今年は業界紙の スコアアップを狙おう

3 結果KPI

- 広報活動の結果により、お客さまの自 社に対するパーセプション(認識)変 化をアンケート調査で把握
- どの項目で何ポイント上げるかなどの 目標を設定
- 宣伝部などが実施するブランド認知の 調査などに組み込んでもいい

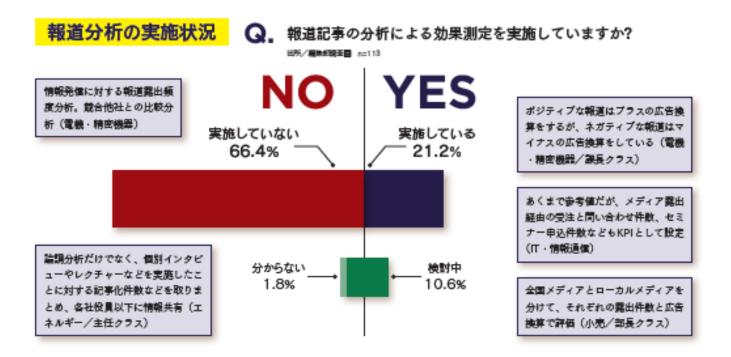
報道記事に基づき構築された イメージの推移を調査しよう

> CEOの名前の認知が 上がったかチェック



月刊「広報会議」2017年11月号より



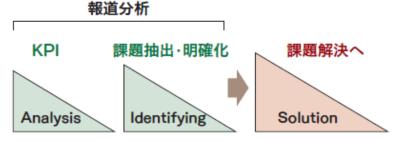


月刊「広報会議」2017年11月号より



報道分析の結果を数値化したもの 広報効果測定値





広報効果測定の目的は 広報課題の解決に役立てること

筆者作成

月刊「広報会議」 2017年11月号より



次世代広報のKGI

ブランドマーケティングのKGI

- ブランド想起率の向上
- ブランド好意度の向上
- 購入意向の向上
- 価格プレミアム
- 推奨意向の向上 etc...

- 企業好意度の向上
- ●サービス理解度の向上
- 記事認知度/理解度の向上
- 問い合わせ意向の向上
- 利用/契約意向の向上
- ●入社意向(採用)の向上
- 投資意向(IR)の向上 etc...

月刊「広報会議」 2017年11月号より

